



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net



子育て・親育ち勉強会を開催

「うちの子、ちょっと心配？」と思ったら

2007年12月22日(土)、つばさ園療育指導員の山崎育先生を講師にお迎えして、勉強会を開催いたしました。18名の方が参加され、お茶を飲みながらの気軽な雰囲気、率直な話し合いの場が得られたと思います。「なんとなくのにお」の存在を知らない方のご参加もあり、大いに励まされました。私たちにとっても初めての勉強会開催であり、参加してくださった方はかなり勇気をもって出てきてくれたのかもしれない、と思われました。

勉強会終了後、8名の方からアンケートの回答をいただきました。アンケート中の感想では、「具体的な話がなかったことが残念」というものから「困った事をもう一度考え直してみようと思う」「先生の言葉がずしりときました」など、親としての様々な気づきも書かれていました。今後どのような話を聞きたいかをたずねたところ、「いろいろな分野のお話を聞きたい」「ペアレントトレーニングについて学びたい」「公共の場で講演会をしてほしい」など、気楽に参加できる会を求め一方で、より深い話を聞きたい方もいることを痛切に感じました。3月に第2回を開催予定です。(案内は3ページ) (白井)

以下はアンケートのまとめです。

1. 勉強会を何で知ったか。(重複回答)

①知人・友人: 6名、②チラシ: 4名、③新聞: なし

2. 印象に残った点や感想など

■具体的な話(軽度発達障害の内容別の対応)がなかったのが残念。■「気になったら連絡を・・・」の内容に、親は「じゃ、どこへ連絡すれば・・・」具体的な連絡先を教えてください。■様子をみましょうとよく言われ、嫌な言葉だと思っていましたが、期限を切って仮説を立て、本当に様子をみてくれたらうれしいなと思いました。■年齢によって、障害児の困ったという意識が違うので、専門機関に相談するのが大切だと感じた。■割り算をしながらじつは引き算の勉強をさせているという学びのテクニックがいいなと思いました。■対応する側(とくに、親)のゆとりがないと、いつも自分のものさしで判断するしかないのでもうまいかない、そういう時の方が多いです。「こだわりたい時、いつも同じようにしたい時は、何かにしがみつきたい時かもしれない」という言葉がずしりときました。■優しい暖かな印象のお話でしたが、内容はシビアなところもあり、相談支援者としてはグサリとくることもあった。どこまで手伝えどこまでできるかをこちらが知り、本人に返していくこと、それは大切なことですね。どうしても支援者が手伝いすぎていたり、逆に本人にできないことを要求して困らせたりすることが多いような気がします。■困った事をもう一度考え直してみようと思いました。

3. 今後、勉強会でどのような話を聞きたいか。

■いろいろな分野でのお話を聞かせてほしい。■ペアレントトレーニングについて学びたい。■親御さんの困りごとを相談できる機会を多く持ってほしい。■行政に、一貫した障害に対する指導計画をきちんと持ってほしい。■これから思春期に入っていくので、他の人の困っている事等も聞いてみたいし、その他何でも情報がほしいです。■社会的に世間の目は冷たいです。公共の場で講演会をしてほしい。

4. 今後、情報交換の場があったら参加してみたいか。

はい: 7名

目次

子育て・親育ち勉強会報告	1
V ネット記事より	2
サイエンス・カフェ報告	2
活動日誌	3
子育て勉強会(第2回)	3
こんな本はいかが?(3)	4

居場所のひとつ

■格闘技に興味のある利用者の中学生はこここのところボランティアのお兄さんといひ汗を流しています。これをきっかけにいろいろなことが広がっていきそうな予感(o^)/ 楽しみです!
■右写真は「幸せの食卓」(日テレ)で使われている報徳会館台所の「かまど」から突き出した煙突。今年のご飯を炊いてみたい...



日光 市民活動支援センター

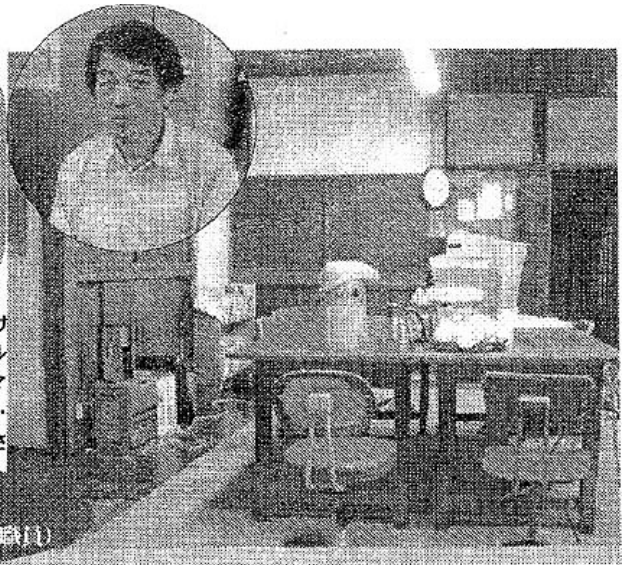
with NPO おおきな木

電話&FAX 0288-22-2271
(前田・沼尾など)

栃木の面積の4分の1を占める日光市。(人口は20分の1だけ)
その日光市民活動支援センターと業務提携して、毎月リアル
タイムで・確実な・行動(ボラ)するための“情報”をお届け。マ
スコミ・HPとかのフツーの・遠くの情報ではなく、身近に相談
・応援機能がついているのがミソ。身近なところでボランティア。さ
あ、どうぞ!

日光優しさ発見隊!

…発見者●沼尾大輔(支援センター職員)



サイエンス・カフェ運営に興味のあ
る方、連絡ください!

NPO法人 なんとなくのニわ 理事長 手塚郁夫さん



報徳今市振興会館で不登校生のフ
リースペースや親御さんの相談会を開
催している「なんとなくのニわ」の理
事長 手塚郁夫さんを訪ねました。

「学校がマニュアル化」教員やめて、
母親たちとリースペース創り

創ったきっかけは6年前に理事とし
て関わった「NPO おおきな木」の設
立総会で「リースクールをつくりた
い!」というお母さんたちと出会った
こと。当時手塚さんは定時制高校の教
師。長い経験の中、多くの生徒とふれ
合い、いわゆる「学校」での学びリ
キキュラムに積み重ねる教育に合わない
生徒もいることを感じていました。

「ここ10年くらいは小中学校で不登校
を経験している生徒が急増。『学校』
集団教育」という教育システムにムリ
が来ているのではないかと、もつと個々
の子どもの寄り添う学びの場を創りた
い!」気持ちを強くしていたそうです。

手塚さんの思いとお母さん方の思い
とが重なり2004年、ついにフリ
ースペース「なんとなくのニわ」がスタ
トします。

翌春、手塚さんは定時制高校の教員
から、「集団指導がもともと苦手なこ
ろにきて学校がマニュアル化し、自分

お知らせ

居場所スタッフ、当会ホームページ
管理人でもある、沼尾忠宏さんが
三味線漫画ライブをやっています!

2月21日(木)

三味線漫画コラボライブ

場所: 東京シューレ葛飾中学校

時間: 午後1時より

3月1日(土)・2日(日)

三味線と版画コラボレーション
ユニット「しゃみはんがボイス」

場所: ACCELL ギャラリー悠日2
(宇都宮市)

時間: 午後2時より

詳しくは以下のアドレスへ

[http://www.geocities.jp/
kujiranoryoko/live.html](http://www.geocities.jp/kujiranoryoko/live.html)

に合わなくなりました。教員以外の仕事も
やってみたくったと、近くの病院の
事務職に転職。「NPOの活動にはい
ろいろ便宜をはかってもらっている。
職場には感謝しています」と語ります。

学校では全てに目的がある。「なんと
なく...」は学校の発想への「?」では。
「なんとなくのニわ」という名前は
スタート時に集まってきていた子ども
に決めてもらったそうです。子どもが
「なんとなくの...」とアイデアを出した
ときには手塚さんはドキッとしたそう
です。学校ですべての活動には目的
があり、そこに向かって努力すること
が求められる。「なんとなく...」という
言葉は、その学校の発想への子どもな
りの抵抗なのではないか。この名前の
リースペースが学校に受け入れられ
てもらえるだろうかと考え込んだそう
です。けれど、学校になじめない子ど
もたちが学校の本質をとらえ、「なん
となく...」を求めていることを痛感し、
子どもたちの「なんとなく...」を保障
する、子どもの意見で創られる学びの
「場」を保障したいと思つたそう
です。そんな思いは「居場所」を支え
るスタッフにも共有されています。「自
分はそうした「場」を保障しているだ

け。活動はすべてスタッフの力で」と
話しておられました。

「在る」とが大切。不定期でサイ
エンスカフェもやる元理科教師

最近、「こうした「居場所」は、いつで
も行ける場所として、在る」ことが大
事なんだ。」という信念のもと、何か
あったときにつながる「場」が、在
ることを一人でも多くの子どもたち
に知って欲しいとPR活動に力を入れ
ているそうです。

他にも不登校や軽度発達障がい等の
子どもたちの自主的な学びをサポート
する広場を毎週金曜日に行っています。
また、科学を楽しむ「サイエンス・カ
フェ」というイベントを不定期で行っ
ています。「中学生の頃、いわゆるラジ
オ少年だった。壊れたラジオの部品を
集めて、通信機やアンプを組み立てる
のが楽しかった。子どもたちに楽し
さを伝えたい」、「子どもたちの科学
サークルを「なんとなくのニわ」に作
りたい」と話されたときは、ちよつと
「理科の先生」の顔になっていました。
そういうのは最近「なんとなく」過
す時間をなくしているな、と自分を振
り返りつつ、終えた取材でした。

【なんとなくのニわの活動】

■リースペース/毎週火・金10-16時、報徳今市振興会館。■保護者相談/毎週火・金13-16時、報徳今市振興会館 ■学びサポートひろば/毎週金16-20時、日光市民活動支援センター ■サイエンス・カフェ 不定期

☆ 活動日誌

- 11月 9日 (金) サイエンス・カフェ11・くまの木天体教室
 11月16日 (金) 日光市教育長宛、削減幅見直しの要望書を提出 (村上、手塚)
 11月25日 (日) ベリー会 (吉成、沼尾)
 11月25日 (日) なぜ、今メンタルヘルスなのか
 (宇都宮こころのクリニック 原隆先生) (村上)
 11月26日 (月) 発達障がい支援者連絡会 (第22回)
 11月26日 (月) わたげ福祉会 (仙台市) 研修旅行 (吉成)
 12月 8日 (土) サイエンス・カフェ12・超高速計算機をつくる 講師：川井敦さん
 12月 9日 (日) 「ワカモノフェスタ」に参加 (スタッフ、理事、利用者中学生など)
 実行委員として、吉成、沼尾、加藤が参加しました。下欄の加藤レポートをご覧ください。
 12月22日 (土) 子育て・親育ち勉強会 (発達障がい支援者連絡会)
 12月23日 (日) ベリー会 (吉成、沼尾)
 1月 5日 (土) 第19回 理事会
 1月12日 (土) サイエンス・カフェ13・静電気のふしぎ 講師：湯澤光男さん (右上写真)



ワカモノ・フェスタ 2007

去年よりも一層、子どもたち、若者たちの姿が際立っているように感じました。作品展示やロータファッションショーなど、表現しようとする子どもや若者がいることを確認して、これは何としてでも継続していきたいイベントであるとあらためて実感しました。

「不登校」シンポジウムもふたを開けたら意義深い話が聴けました。私自身、司会者ということで、最後の方で話を簡単にまとめてしまいましたが、それぞれ3人とも異なる物語を持っていて、一人ひとりの個性が面白いと思いました。ちえこさんが最後に訴えた、子どもにとっての地域の中で信頼できる人間関係や居場所作りの必要性は重要な課題を提起していたと思います。また大橋かなえさんが話してくれた内容は、いわゆる「不登校」という言葉で共有される社会的な類型にはまらない、刺激的で面白い話でした。ピースボートでの体験や屋久島への旅行談、いま夢中になっていること、考えていることを具体的に話してくれました。誰かに期待された物語に沿うのではなく、重要なのは自分がどう生きて、どうメッセージを発していくのか、そういう「個」の大切さを教えてくれたのではないかと思います。

そういう意味では信田君の「自分に嘘のないように生きていきたい」という言葉も大切です。控え室での話も含め、司会という「特権」で近くで話が聞けて非常に良い体験をしたと思います。

「マエコの気まぐれBAR」に来てくださった方々、本当にありがとうございます。お酒を気持ちよく飲んでいただいてすごく嬉しかったです。スタッフのみなさんは一生懸命働いてくれましたし、マリエさんには接客指導も含め、大変お世話になりました。そして自分が一番さぼっていました。今度はもっとスタッフの面白さを出せるようなBARにしたいです。

イベントの成功は、ワカモノ実行委員だけの力ではなく、理解を示して下さる方々の協力があってこそだと思います。「大きなつながり」の中でワカモノフェスタが支えられているということを強く実感しました。今年の成功を喜びつつ、今後長く継続していけたら最高だと思います。(加藤)

発達障がい支援者連絡会

発達障がいを持つ子の親、学校関係者、市民団体等が自由に意見交換を行い、今できることに取り組んでいく集まりです。毎月第4月曜日、午後7時から、日光市民活動支援センターで開いています。それぞれの立場での意見や悩み、助言などの意見交換、他地域の先進的な取り組みの紹介もあります。今年度、市教委に所属する臨床心理士の参加をいただき、参加者が発達障がいについての知識を深めるような場所にもしていきたいと思います。どなたでも参加自由の会です。

気軽にご参加ください。(西尾・白井)
 連絡先：日光市民活動支援センター
 (電話：0288-22-2271)

3月22日(土) 午後1時30分より
 本会主催の「しつけ・子育て」についての勉強会(第2回)を予定しています。

「うちの子、ちょっと心配?」
 と思ったら(小中学校編)

講師：帷子頭二郎さん
 (臨床心理士、日光市教委 発達相談員)
 会場：日光市中央公民館小ホール
 参加費：無料

学びサポートひろば

「不登校」や「発達障がい」の子どもたちにむけて、学習サポート事業を9月から始めました。学校での「勉強」の枠にとらわれず、子どもの興味関心をもとに学んでほしいという「なににわ」のコンセプトを生かした「学び」を子どもたちといっしょに作っていくための試みです。興味のある方、ご連絡ください。担当：前田、加藤、吉成、手塚
 毎週金曜日 午後4時から8時まで 会場：日光市民活動支援センター



特定非営利活動法人 なんとなくのにな通信

〒 321-1261 日光市今市 378

電話/Fax 0288-21-2631

E-mail: info@nantonakuno.net

ホームページもご覧ください

<http://www.nantonakuno.net/>



私たちの活動目的：

日光市およびその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して学習や自立の支援活動を行い、地域の人々が支える新たな学びの場を作り出すことを目的とします。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、子どもたちに自然環境保全の大切さを啓発する活動



こんな本はいかが？ その3

「私のおすすめ本」を紹介するコーナーです。投稿歓迎。

思考のフロンティア 『教育』

広田照幸、岩波書店(2004年5月)

2004年秋、「なんにな」設立の準備をしていた頃、「設立趣旨書」という文がいちばん大切だよと誰かに言われた。何のためにNPO法人を作るのかを数百字にまとめなければならない。その趣旨書を書くときにお世話になった本の中の一冊だ。

この国で5、6年も生きていれば誰でも、何らかの形で学校に関わった経験を持つ。だから、学校についてはいろんな意見がある。学校の画一性、管理主義、制度の硬直化などを批判するのはやさしい。けれど、そんな批判からはじまったはずの新自由主義的「教育改革」は迷走状態となり、着地点を見いだせないままだ。本書は、学校選択制、カリキュラムの個別対応などの問題点を整理し、教育について多面的に考える材料を提供している。『今進んでいる動きは、道徳的な内面化を強化することで全体に一律の網をかけつつ、はみ出す者を個別化したケアの網の目に入れて無害化してゆく、そうした仕組みである』というコメントは、「支援」という立場で教育に関わる私たちが、頭の片隅に置かねばならない警告だと思う。

「自分たちの、今しか考えていない」改革は結局長続きしないだろう。思いつきの議論ではなく、「私たちは、どんな未来社会を選択するのか」という問いかけから教育は再構築されなければならないという著者の真摯な思いが伝わってくる本である。(手塚郁夫)

現在の会員数

正会員:35、賛助会員:17

団体会員:3 入会金はありません。

年会費(一口)は以下のとおりです

正会員 3,000円

賛助会員 個人 5,000円、団体 10,000円

「なんにな」の活動の約30%は会費でまかなわれています。会員の継続をよろしくお願いいたします。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。皆様の積極的な参加をお願いします。

なんとなくのへや

パソコンの世界でよく使われる「デフォルト(default)」というカタカナ言葉があります。ネットで検索してみると、「省略時の値。プログラムに与えるべき値をユーザが設定しなかった場合に採られる既定値。転じて、製品出荷時設定

を指すのにも用いられる」という説明が見つかりました●英語の辞書には「義務などの怠慢、不履行」と訳されています。ユーザが決定しなくても、適当に割り当てておくという意味なのでしょう●コンピュータやネットワークの設定で、よくこの「デフォルト」に悩まされます。ソフトウェアを更新したら不具合が起きたといった場合、悩んだ末にデフォルト設定の変更で解決したというのはよく聞く話です●普段の生活の多くを、「これはこういうものだ」という既成のルールに頼っているのが私たち人間です。いままで思い込みでうまくいっていたことが、環境や人間関係が変わってしまうとトラブルになる。人間の「思い込み」をコンピュータに持ち込んだものが、「デフォルト」なのだから事情が似ているのは当然です●いつもと違った所へ出かけるときや初めての人に会うとき、「思い込み」を捨てて、自分の「デフォルト」がどうなっているか点検してみると、思わぬ発見があるかもしれません。(T)